

## 俳人協会賞

染谷 秀雄

「秀」同人の藺草慶子さんが第五句集『雪日』にて第5回俳人協会賞を受賞されることに決定した。俳人にとって欲しくてもなかなか成し遂げることの出来ないことであり大変よろこばしく誇りに思う。山口青邨の「夏草」師系で言えば第19回の古館曹人から有馬朗人、深見けん二、黒田杏子、斎藤夏風に続く15年ぶりの快挙であり、昨今複数受賞者の多い中での一人受賞というのも斎藤夏風に続き誇らしいことである。

ここまでの道のりはひたすら地道に努力してきた賜である。高校三年の時に雑誌『蛍雪時代』俳句欄に応募して秋元不死男選に入選、大学では山口青邨の指導句会「白塔会」に入会、そこで先輩の黒田杏子を知り、大学卒業後は中学校の国語教師となった。その後、古館曹人が木曜会の十句出しの句会の中で昭和56年に三年間の期限付きで行った超結社による若手俳人育成の実験句会「ビギンザテン」の企画に参画し、そこで採まれた。この会に参加した若手は皆、現俳壇の第一線で活躍されている。

慶子さんの物怖じしない持ち前の行動力には誰にも敵わないものがある。夏休みを使ってはヨーロッパの各国へそして佐渡・隠岐・出雲など単独で吟行しては作品をものにしていった。また、協会を問わず多くの他結社の俳人との交流が自然とその輪を絆を強固なものにして行った。最愛のお父上を介護の甲斐なく亡くされたことは誠に残念ではあるが天国できっと愛娘の受賞をよろこばれていることだろう。

俳人八田木枯との交流から晩紅塾へ参加しての句会や「戦中戦後私史」を五年間にわたって木枯の聞き手役を務め、昨年「俳句とエッセイ」誌では三号にわたり、「私の源流」と題して木枯について熱筆した。句集『雪日』の中でも熊の腑分けを見に単独で雪深い岩手の沢内、深吉野の獵師小屋、國栖奏などにも出掛け貪欲に作品に昇華して行った。これらを見るにつけ句集『雪日』に俳人協会

賞に相応しい作品群を残された。来たる三月二十八日に行われる俳人協会総会後の授与式その後の懇親会、祝賀会にみんなまで参加して祝いたいと思う。